

令和7年度第1回 海岸工学委員会委員会議事録

開催日時：令和7年6月16日（火）14:00～17:20

開催場所：土木学会講堂（対面）および Web（Zoom）によるハイブリッド会議

出席者（敬称略）：

【オンサイト】

岡安相談役，森前委員長，北野前幹事長，渡部委員長，田島副委員長，原田幹事長，高川，嶋原，遠藤，荒木，山中，安田，下園，猿渡，柴田，田島，内山，宮武，鈴木，福谷，加藤（川崎代理），澁谷（記録）

【web】

加藤，木原，門廻，大井，太田，宮本，織田，川崎，岩前，久保田，楳田，山城，中村，五十里，高原，馬込，比嘉，秋山，平野，越村，西畑，多田，松下，李，小野，保坂，中下

■ 前回議事録の確認：前回委員会の議事録（WEB 公開済）を確認した。

■ 2025-2026 年度委員長選挙

- ・ 委任者および出席者代理者を含む出席委員数（選挙後の入室者除く，40 名）が定足数（委員定数 48 の 2/3）に達していることを確認し，「土木学会海岸工学委員会委員長選挙細則（H25.6 改正）」に則り，標記選挙を実施し，以下の結果となった。
- ・ 予備投票選出者：渡部靖憲委員，田島芳満委員 第 2 回投票選出者：渡部靖憲委員
- ・ この結果により，渡部靖憲委員が 2025-2026 年度海岸工学委員会委員長に推薦され，渡部靖憲委員の承諾をもって決定された。
- ・ 副委員長の推薦・承認，幹事長の指名，相談役の推挙（渡部靖憲新委員長）
- ・ 渡部靖憲新委員長の指名の下，以下の通り承認された。
副委員長：田島芳満委員
幹事長：原田英治委員
- ・ 相談役として，佐々木淳元委員長が推挙され，承認された。

■ 第 72 回海岸工学講演会報告（原田幹事長・門廻委員）

- ・ 第 72 回海岸工学講演会（秋田）の開催状況の報告と開催協力関係者へ謝意が示された。
- ・ 参加者数：講演会480名，前日シンポジウム148名
- ・ 補助金：48万2千円

■ 2024年度実績委員会活動評価結果

- ・ 2024年度の活動度評価ランクは情報発信数が2500名に届かずBランクとなった。
- ・ 今年度は研修会，海岸工学講演会等引き続き周知徹底しランク A を目指す。
- ・ オンラインと対面のカウント数は同等であるため，海岸工学講演会の前日シンポジウムだけでもハイブリットにできると参加人数が増えると考えられる。
⇒検討する。

■ 第 72 回海岸工学講演会論文審査（山城小委員長）

- ・ 登録論文数は271 編（和文 253 編，英文 18 編）であった。昨年度には届かなかったが，数年前に比べて増加傾向（テキスト投稿に変更後）。
- ・ 投稿論文による企画セッションは開催なし。
- ・ 査読者：120 名（主査：8.0編/人，副査1：9.7編/人，副査2：4.7編/人）

- ・ C判定（8編）のうち要旨の書き換え求めるもの2編含めcecで厳正な審議の結果発表審査はすべて通過となった。
- ・ 分野別としては、波流れが増加傾向であった。
- ・ 1件の二重投稿があった。
- ・ 論文ID通知メールの送信エラー2件：学生のメールアドレスのみ⇒指導教員に連絡。
- ・ その他：要旨の内容は一般的な記述ではなく、得られた研究の成果の要点を具体的に述べるようにと記載しているが、書き方が悪く審議になっている要旨もあるため、「要旨は、目的、手法、主な成果がわかるよう記載してください。それらが不明確な場合にはD判定となる場合があります」のような注意書きを追加で入れることを検討。
- ・ 査読割り当て作業が煩雑になっているため改善できればと考えている。
- ・ J-STAGE論文査読状況：本論文提出175編（昨年度から10編減）。Googleフォーム未回答が1件あった。
- ・ 現在審査通知期間中につき、随時連絡。ほぼ結果の通知が終わっている。（6/16時点で3編返却）
- ・ E M標題の欄についていくつかのミスがあったが、テクニカルチェックで返却し、査読前に投稿者に対応いただいた。
- ・ 投稿遅れ3件。最終投稿日が海洋開発と同日で投稿済みと勘違い1件。投稿と事務局に送信済みと勘違い2件。いずれも投稿者にご対応いただいた。
- ・ 査読依頼時に、副査より依頼が届いていないメールが複数あった。主査が査読依頼をする期間を設けることも検討することが必要。
- ・ 査読のコメントを間違えて入力した可能性があるとの連絡あり。差し戻しの対応を行った。（2件）
- ・ 著者負担金について：J-STAGE 有：45000円（上限）として検討する。J-STAGE 無30000円までは容認。登録ミスは5000円を課金する。論文集DVD有料頒布3300円とする。昨年までの35,000円（Jstage 有）は難しいかもしれないが、できるかぎり、40,000円を超えない努力はする。

■ 投稿査読新システム検討特命WG：これまでの課題を引き続き検討

- ・ できるかぎり海岸工学委員会仕様に近づけて簡素化をめざしたが、EMの制約で、できないことも多い。
- ・ EM導入費用として、アトラスに138万円契約済み。

■ 第73回海岸工学講演会の準備状況について（山中委員、中下委員）

- ・ 現地開催委員長：香川大学創造工学部・教授 石塚正秀先生
- ・ 日程・場所：2025年11月25日（火）、26～28日（金）サンポート高松シンボルタワー
- ・ プログラム：第5会場は3日目使用不可。9時開始で昼休憩を長めに設定することで、271件の発表は可能。開会式の開始時刻は秋田と同じ。開会式の時間は15分間としている（秋田大会では30分間、それ以前は15分間）。開会式後の休憩を長め（15分間）にし、第1セッション前の移動時間を確保した。
- ・ 懇親会会場：費用が高いため、会場を変更予定。正会員7500円、学生会員5500円を想定。（定員150名）。事前に人数把握が必要なため、事前予約7000円、当日7500円を検討中。
⇒事前予約はgoogleフォーム等で把握するのはよいと思う。支払い事前に済ませるのか？
⇒事前予約の段階で費用をもらうかは検討中。他の学会を見ながら検討する。
⇒前回は、初日に申し込みが少なく、2日目になってようやく申し込みが増えた。事前登録が少なければ、定員の変更をするのか？
⇒料理の期限もあるので、定数の変更は考えていない。事前登録をディスカウントする

ことで人数を確保できないかと考えている。

⇒事前予約を前向きに検討していく。

- ・ 会場：フリーwifi使用をしないように依頼があった。
- ・ 前日シンポ：プランA（シンポジウム3：香川大シンポ，前日シンポ①気候変動適応策，前日シンポ②海岸工学2040）の方向で進める。前日シンポの順番は気候変動適応策⇒海岸工学2040がよいと思われるが，要調整。
- ・ 香川大学のシンポジウムはスケジュールを相談。
⇒会場は重複しないのか？
⇒5会場のうち3つがホールだが，一番大きなホールで連続して使用することを考えている。
- ・ アルバイト配置計画：マイク係は学会に参加している学生にアルバイトをお願いすることを考えている。アルバイトの依頼の経路はどうすればよいのか？
⇒何日に何人足りない という情報がわかった段階で，委員の先生方に依頼するとよいのではないか。
⇒その方向で検討する。
- ・ 予算計画：補助金が20万円の予定（宿泊者数の数により変動）。会場費165万円を予定。現状の予算見込みでは赤字にはならない。
⇒前日シンポを1会場にするのであれば，さらに削減できるのか？
⇒前日は準備があるので，部屋の予約は現状のままを予定。
- ・ 来賓：知事，市長，整備局長を予定。

■ 第 73 回海岸工学講演会の準備状況について（山城委員）

- ・ 実行委員会：山城・井手（九大），池畑（日本文理大），鶴成（大分大），松下（西工大），齋田（鹿大），金・稲垣（熊大），上久保（熊本高専）
- ・ 日程・開催地：2026年11月10日～13日（見学会前日シンポ） ホルトホール大分（予約済み：第1会場のみ前日の朝から予約。）
- ・ 費用：会場費110万円程度の予定。補助金50万円の可能性があり（延べ宿泊者数400名以上），60万円程度で開催できる見込み。企業展示用エントランス使用料が別途発生する可能性あり。
- ・ 見学会候補地案：大分港、別大国道フレア型護岸等を検討中。整備局に船を出してもらえないか相談予定。
- ・ 懇親会：レンブラントホテル、ホテル日航オアシスタワー、トキハ会館を候補として見積取得中
- ・ 懸念事項；会議室の使用開始時刻が9時であり，それ以前は準備でも使用不可。第1セッションが9時に開始できない。
- ・ アルバイト：各実行委員の大学の学生で担当し，不足する場合は要検討。

■ 第 60 回水工学に関する夏期研修会（B コース）開催について（山城委員）

- ・ 日程：2025年8月28日（木）～8月29日（金）（A，B コース並行開催）
- ・ 場所：九州大学医学部 百年講堂（対面＋録画によるオンデマンド）（場所変更の都合で、費用が多少増加）
- ・ 水工，海岸で一体となって準備を進めている。
- ・ 両日ともに講師との交流会を開催予定（参加申し込み者を対象に交流会の案内を予定）。
- ・ 参加費用：現地参加とオンデマンドで差をつけている（サーバー等の使用料）。現地参加は16000円，学生10000円，オンデマンドは18000円，学生12000円。
- ・ テーマ：水工学のパラダイムシフトをもたらす技術・研究

⇒オンデマンドの教材はどのような形か？

⇒講演を録画してオンデマンドで配信する。

⇒配信の媒体は？

⇒当日流すのは考えていない。ある期間を設定して購入した人のみ視聴できるような仕組みを考えている。

⇒東大で開催した際は、すべて業者に外注したが、ギリギリ黒字だった。

⇒各研究室・職場において、広く情報を発信していただきたい。多数の参加者を募れるようにお願いしたい。1日目は、水工・海岸に限らない話だと思うので、分野に限らず広く周知したい。

■ 第 61 回水工学に関する夏期研修会（B コース）開催について（榎田委員）

- ・ 日程：2026 年，場所：金沢大学
- ・ テーマなどは計画中。テーマ設定これから。能登半島地震津波・豪雨災害等の関連で河川・海岸の災害に関するものを検討中。金沢大の河川系の先生と相談し進める予定。

■ Coastal Engineering Journal について（内山小委員長）

- ・ CEJ 小委員会メンバー（五十里先生，猿渡先生，鶴田先生）。
- ・ 小委員長：内山，副小委員長：有働，高木，Suppasri
- ・ 委員：渡部，田島，下園，Khayyer，田村，織田，鈴木； 原田，今井，加藤，木原，三井，陸田，高川，三戸部，伴野，志村，Adriano，五十里，猿渡，鶴田，高島
- ・ Associate Editor-in-Chief にAnawat Suppasri (Tohoku University, Japan) 先生に加わっていただいた。
- ・ 2024/12月号：6 編
- ・ 2025/1漂砂に関する特集号を発刊。初めてInvited paper を依頼。[Invited] The role of climate in determining foredune types and modes, by Patrick A. Hesp
- ・ 採択されたあとに P D F を作成する会社にミスが多い，随時フォローしていくので，何かあれば内山委員まで連絡する。
- ・ CEJ Virtual Special Issue (Article Collection)：7/1を締切に設定。3 編採択済み、5 編査読中。
- ・ 国別投稿数の推移：2024年度213編2019年と比べて約 2 倍となっているため，メンバーを増加した。アジア・世界各地からの投稿も増えている。
- ・ Coastal Engineering Journal Award 2024選考プロセスを説明し了承され，以下論文が推薦された。
“The wavedrifter: a low-cost IMU-based Lagrangian drifter to observe steepening and overturning of surface gravity waves and the transition to turbulence”
- ・ CEJ Citation Award 2024 (2020-2024)について選考プロセスを説明し了承され，以下の論文が推薦された。
“Green infrastructure for the reduction of coastal disasters: a review of the protective role of coastal forests against tsunami, storm surge, and wind waves”
- ・ JAMSTEC 中西賞の選考プロセスについて説明し了承され，以下の論文が推薦された。
“Coherent turbulent flow structure under plunging breaker on movable grain bed simulated by 3D DEM-MPS method”
- ・ CEJ Reviewer Award 2024 の選考方法について説明し，了承され 8 名の査読者が表彰されることになった。（H P で紙面を公表）
Masayuki Banno, Kasun De Silva, Ming He, Hithaishi Hewageegana, Takumu Iwamoto, Shigeru Kato, Tomohiro Takagawa, and Satoshi Takewaka

- ・ Special Issue 2027企画：CADMASの研究会およびC F D（数値計算系）の企画を進めている。
- 沿環連の活動について（原田幹事長）
 - ・ 沿岸環境関連学会連絡協議会の活動が現在停滞しており，常設の小委員会としての活動を終了する。
- 沿岸域研究連携推進小委員会から研究会への移行の提案（遠藤委員）
 - ・ 沿岸域研究連携推進研究会（小委員長 遠藤委員）の立ち上げについて承認された。
- 広報・出版・web開催小委員会（嶋原委員）
 - ・ 広報・出版・Web開催小委員会⇒広報・出版小委員会としコロナ前の名称に変更する。
 - ・ オンライン・ハイブリット開催するものについては，小委員会でサポートしない。
⇒オンライン・ハイブリット開催の際にzoomのアカウント等は利用可能か？
⇒Zoom、ウェビナーも土木学会のアカウントを使用可能（事務局：杉野）
 - ・ おすすめの書籍：2年ほど停滞していたが，半年に1回程度のペースで更新予定。
 - ・ 論文集DVDを販売：講演会の参加者に限る．責任著者にはダウンロードURLを送付する。
 - ・ ⇒広報の媒体としてHP前提としているのはいかが，インスタやXなどのSNS発信も考えた方がよいのではないか？
⇒検討する。
- 海岸工学委員会内規細則の改正
 - ・ 9．広報・出版・Web開催小委員会⇒広報・出版開催小委会に修正（Webを削除）。
 - ・ 10．小委員会の記載を削除
- 沿岸まちづくりにおける経済学的手法研究小委員会（安田委員）
 - ・ 海岸工学委員会での活動は終了する．減災防災委員会等で活動してはと声かけがあったことから，別の場所で活動の継続を検討中。
- 沿岸災害デジタルツイン研究小委員会（越村小委員長）
 - ・ 2期研究小委員会『海岸・海洋デジタルツイン研究小委員会』の立ち上げについて承認された。WG長等は公募予定。
- 研究会：事前送付資料参照
 - ① 波動と地盤の複合場における地盤材料の取扱方法に関する研究会（事前送付のみ）
 - ② 地域研究活性化WG（事前送付のみ）
 - ③ 波動モデル研究会（事前送付のみ）
 - ④ 沿岸域における気候変動適応策に関する研究会（事前送付のみ）
- 海岸関連省庁との連携ワーキング（田島委員）
 - ・ 新体制においても本ワーキングを継続．頻度を減らして現地見学や対面開催を主にするなど，新体制で第3回目の開催を検討する。
- 海岸関連人材強化プロジェクト（田島委員）
 - ① シードクター
 - ② 検討会プラス1（若手研究者を対象。任期制。シードクターから選出）
 - ・ 上記リスト管理は海岸工学委員会にて行う。シードクター・プラス1の運用ルールにつ

いて気づいた点はメール連絡

■ 河川砂防技術研究開発公募提案型課題（海岸）の新設

- ③ 国交省職員的能力強化
- ④ 直轄事務所担当者会議の新設
- ⑤ 検討業務への学識経験者意見聴取を位置付け（仕様書記載例を通知予定）

■ サーバーセキュリティ対策特命WG（川崎委員）

- ・ メンバー：川崎浩司（愛知工業大学／KK技術研究所）（主査），北野利一（名古屋工業大学），下園武範（東京大学），中村友昭（名古屋大学），比嘉紘士（横浜国立大学），井手喜彦（九州大学）
- ・ サーバーを新しくレンタルしたが，HPの環境をアップグレードできない．HP更新代行サービス等でアップグレードした方がよいとため，1回のみの更新を依頼できる業者を紹介いただきたい．
⇒WordPressのような頻繁にアップデートするものについては，年に1，2回の更新など保守契約できるとよいのではないかと？
⇒検討する．会社等があればご紹介いただきたい．

■ 海岸工学2024特命WG（川崎委員）

- ・ 今後の活用は以下を予定。
 - ✓ 前日シンポジウムでの講演
 - ✓ 土木学会論文集通常号への投稿
 - ✓ 科研費・学術変革領域研究（A）への申請⇒1年後に投稿予定
- ⇒海岸工学の一部の枠組みだけでは学術変革領域研究は難しい．そこから次の新しい学際領域につながられるか，分野横断的な中身が必要．また，プロポーザルの段階では，中身で評価されるが，成果をかなり求められる．
- ⇒1回のアプライで採択されるとは考えにくいと，建設的にトライしながらまとめられるとよいと考えている．前日シンポジウムについては，海岸工学2040の総意の形をとるようなイメージを考えている．
- ⇒学変はかなり大変だが，インパクトを与えるようなアウトプットのモデルになればと考えている．一度形になってから，適切な作成を検討する．
- ⇒もっと若手を巻き込んでいくのがよいのではないかと．自分事としてとらえられるようになるのではないかと．
- ⇒将来どう持っていくのか，具体的に何ができるのか，を考える必要がある．たたき台がないと議論ができないので，まずはたたき台を作る．科研については，若手が必須のため，メンバーは再度募る予定．

■ JSCE-CCES 今後の実施方法について打ち合わせ（第4回日中土木学会ジョイントシンポジウム）（原田幹事長）

- ・ 2025年は難しい．2026年度の方がよいという話で進んでいるよう．

■ 2024年度予算

- ・ 2024年度決算について説明があった．

■ ICCE OSAKA JAPAN 2028

- ・ LOGO DESIGNの紹介があり，了承された．

次回海岸工学委員会：11月26日（水）

以上